



Copyright © 2014 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

目次

- 改訂情報
- はじめに
 - 概要
 - 前提条件
 - バージョン
 - Java
 - Apache Ant
- アップデートツールのインストール
 - インストール手順
- アップデート
 - 事前作業
 - 設定ファイルの編集
 - アップデート
- 制限事項

改訂情報

変更年月日	変更内容
2014-04-01	初版
2015-04-01	第2版 下記を追加・変更しました <ul style="list-style-type: none">「アップデート」にテナント毎のライセンス数設定の説明を追加
2017-04-01	第3版 下記を追加・変更しました <ul style="list-style-type: none">「アップデートツールのインストール」のアップデートツールの取得方法についての説明を修正

はじめに

項目

- 概要
- 前提条件
 - バージョン
 - Java
 - Apache Ant

概要

本書では intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) から intra-mart Accel Platform 2014 Spring(Granada) へのアップデート手順について説明します。

前提条件

アップデートにあたっての前提条件は以下の通りです。

バージョンアップ時には、各前提条件を満たすように注意してください。

バージョン

- アップデート元は、intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) のテナント環境セットアップが終わっている状態とします。
- アップデートツールは、intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) の状態を、intra-mart Accel Platform 2014 Spring(Granada)へアップデートします。



注意

本ドキュメントは intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) から intra-mart Accel Platform 2014 Spring(Granada) へのアップデートを対象としています。以下の場合については、「[アップデートの適用](#)」を参照してください。

- intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) 以前のバージョンから intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) へのアップデート
- intra-mart Accel Platform 2014 Spring(Granada) 以降のバージョンからのアップデート



注意

標準モジュールにカスタマイズを行っている場合、アップデートに失敗する可能性があります。

カスタマイズ内容を精査の上、以下を検討してください。

- 一旦標準に戻し、intra-mart Accel Platform 2014 Spring(Granada)上で再度カスタマイズする
- アップデートツールをカスタマイズする

上記検討には、コンサルティングサービスのご利用をお奨めします。

Java

本アップデートツールは Java を使用します。環境変数 PATH に JDK の Path を通している必要があります。

Apache Ant

本アップデートツールは Apache Ant で動作します。Ant のインストール、ならびに環境変数 ANT_HOME が設定されている必要があります。



コラム

URL（2014年4月現在）

- Apache Ant プロジェクトページ：<http://ant.apache.org/>
- リリースアーカイブ：<http://archive.apache.org/dist/ant/binaries/>

アップデートツールのインストール

インストール手順

1. アップデートツールを取得します。
弊社サイトの [プロダクトファイルダウンロード](#) から、「iAP 806 -> iAP 807 アップデートツール」をダウンロードしてください。
2. ダウンロードした圧縮ファイル(update_tool.zip)を、任意のフォルダに展開します。
Windows の場合は任意の ZIP 解凍ツールで解凍してください。
Linux の場合は以下のコマンドで解凍することが可能です。

```
# unzip update_tool.zip
```

コラム

本アップデートツールは、intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) と同じ環境へインストールしてご利用ください。

コラム

以降、アップデートツールのルートディレクトリを [%UPDATE_TOOL_ROOT%] と表記します。

3. JDBCドライバを入手します。

注意

接続先DBに応じて、適切なJDBCドライバを選択してください。

- OracleのJDBCドライバは次のURLよりダウンロードできます。
<https://www.oracle.com/index.html>
- PostgreSQLのJDBCドライバは次のURLよりダウンロードできます。
<https://jdbc.postgresql.org>
- SQL ServerのJDBCドライバは次のURLよりダウンロードできます。
<https://www.microsoft.com/ja-jp>
- DB2のJDBCドライバは次のURLよりダウンロードできます。
<https://www.ibm.com/us-en/>

4. JDBCドライバのダウンロード後、次のフォルダにコピーします。
システムデータベース、テナントデータベースそれぞれのJDBCドライバを配置してください。

[%UPDATE_TOOL_ROOT%]/lib

アップデート

項目

- 事前作業
- 設定ファイルの編集
- アップデート

事前作業

- intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) 環境のフルバックアップ（データベース、設定ファイル、Storage 等）を行ってください。
- intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) 以前の場合、intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) へのバージョンアップを行ってください。
- 以降の説明において以下の表記を用います。
 - アップデート対象の intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) の Storage のルートを [%STORAGE_ROOT%] と表記します。

設定ファイルの編集

ご利用の環境に合わせて、以下のアップデートツール設定ファイル ([%UPDATE_TOOL_ROOT%]/build.properties) を編集します。

設定項目	設定内容
tenant.id	intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) 環境のテナント ID を指定します。 基本的には「default」ですが、intra-mart WebPlatform からの移行として intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) 環境を構築している場合、アップデート元のログイングループ ID を指定します。
system.database.class	intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) 環境のシステムデータベースの JDBC ドライバクラス名を指定します。 Oracle の場合 : oracle.jdbc.driver.OracleDriver SQLServer の場合 : com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver PostgreSQL の場合 : org.postgresql.Driver DB2 の場合 : com.ibm.db2.jcc.DB2Driver ※ご利用の DB 環境に合わせて 1 つのみ指定してください。

設定項目	設定内容
system.database.url	<p>intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) 環境のシステムデータベースの接続URLを指定します。</p> <p>Oracleの場合：jdbc:oracle:thin:@localhost:1521:dbname SQLServerの場合：jdbc:sqlserver://localhost:1433;DatabaseName=dbname PostgreSQLの場合：jdbc:postgresql://localhost:5432/dbname DB2の場合：jdbc:db2://localhost:50000/dbname</p> <p>※ご利用のDB環境に合わせてlocalhost, dbnameを変更し、1つのみ指定してください。</p>
system.database.user	<p>intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) 環境のシステムデータベースの接続ユーザーを指定します。</p>
system.database.password	<p>intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) 環境のシステムデータベースの接続パスワードを指定します。</p>
tenant.database.class	<p>intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) 環境のテナントデータベースのJDBCドライバクラス名を指定します。</p> <p>Oracleの場合：<code>oracle.jdbc.driver.OracleDriver</code> SQLServerの場合：<code>com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver</code> PostgreSQLの場合：<code>org.postgresql.Driver</code> DB2の場合：<code>com.ibm.db2.jcc.DB2Driver</code></p> <p>※ご利用のDB環境に合わせて1つのみ指定してください。</p>
tenant.database.url	<p>intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) 環境のテナントデータベースの接続URLを指定します。</p> <p>Oracleの場合：jdbc:oracle:thin:@localhost:1521:dbname SQLServerの場合：jdbc:sqlserver://localhost:1433;DatabaseName=dbname PostgreSQLの場合：jdbc:postgresql://localhost:5432/dbname DB2の場合：jdbc:db2://localhost:50000/dbname</p> <p>※ご利用のDB環境に合わせてlocalhost, dbnameを変更し、1つのみ指定してください。</p>
tenant.database.user	<p>intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) 環境のテナントデータベースの接続ユーザーを指定します。</p>
tenant.database.password	<p>intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) 環境のテナントデータベースの接続パスワードを指定します。</p>
storage.path	<p>intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) 環境のストレージパスを指定します。</p>

設定項目	設定内容
target.path	アップデートツールが書き込むことができる空のフォルダを用意し、そのパスを指定します。 ここで指定したフォルダにアップデートツールが IM-Workflow の設定ファイルを出力します。

**注意**

システムデータベース、テナントデータベースの接続先が同じである場合、tenant.database.class, tenant.database.url, tenant.database.user, tenant.database.password には system.database.class, system.database.url, system.database.user, system.database.password と同じ値を設定してください。

**注意**

設定ファイルに定義する値には、日本語を使用できません。

**注意**

設定ファイルに定義するパスの設定には、区切り文字に「/」のみを使用してください。

**コラム**

以降、target.path に指定したディレクトリを [%TARGET_ROOT%] と表記します

アップデート

1. intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) を停止してください。
2. ターミナル、またはコマンドプロンプトを起動し、カレントディレクトリが [%UPDATE_TOOL_ROOT%] になるよう移動します。
3. 次のコマンドを実行します。

```
ant
```

**コラム**

デバッグログを出力する場合、次のようにして実行してください。

```
ant -d
```

「BUILD SUCCESSFUL」と表示されれば成功です。

4. IM-Juggling より intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) のプロジェクトを intra-

5. 以下の2ファイルを IM-Juggling プロジェクトに移動してください。

```
* im-workflow-designer-config.xml

[%TARGET_ROOT%]/WEB-INF/conf/im-workflow-designer-config.xml
↓↓↓↓↓↓
[IM-Juggling プロジェクト]/conf/im-workflow-designer-config.xml

* im-workflow-system-config.xml

[%TARGET_ROOT%]/WEB-INF/conf/im-workflow-system-config.xml
↓↓↓↓↓↓
[IM-Juggling プロジェクト]/conf/im-workflow-system-config.xml
```

注意

IM-Workflowのシステム単位の設定「ノードアイコン保存ディレクトリ (node-icon-dir)」のみ、アップデート前の情報を引き継がず、デフォルト値 ("products/im_workflow/icon/") が適用されます。

理由は、intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) から intra-mart Accel Platform 2014 Spring(Granada) へのアップデートに伴い、ノードアイコンの永続化先がパブリックストレージからシステムストレージへと大きく変更となったためです。

ノードアイコン保存ディレクトリを変更して運用している、もしくはノードアイコンを標準のアイコンから変更して運用している場合は、ユーザモジュールによるアイコン配置を行う必要があります。

対応方法については「[IM-Workflow システム設定](#)」を参照してください。

6. war を作成します。

- ストレージパスには intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) と同じパス ([%STORAGE_ROOT%])を指定します。
- データベースも同様に intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) と同じデータベースを指定します。

7. intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) の war をアンデプロイし、前の手順で作成した intra-mart Accel Platform 2014 Spring(Granada) の war をデプロイします。

8. システム管理者でログインします。

- LDAP認証を使用している場合
テナント環境セットアップを行う前に、「テナント管理」画面にてLDAP連携・設定情報を更新する必要があります。
LDAP連携・設定情報の更新に関しては、「[システム管理者操作ガイド](#)」 - 「[LDAP連携・設定](#)」を参照してください。
- IMBoxを使用している場合
テナント環境セットアップを行う前に、「テナント管理」画面にてCassandra接続情報

を更新する必要があります。

その際にCassandra接続情報の初期値は、Cassandraサーバ接続設定（cassandra-config.xml）の設定値となります。

Cassandra接続情報の更新に関しては、「[システム管理者操作ガイド](#)」 - 「[Apache Cassandra接続情報](#)」を参照してください。



注意

- Cassandra接続情報のクラスタ名には、
<%CASSANDRA_HOME%/conf/cassandra.yaml>ファイルのクラスタ名と同じ値を設定してください。
- 更新の際には、必ずテスト接続を行い、以下のメッセージが表示されることを確認してください。
 - 接続認証設定なしの場合、「テスト接続に成功しましたが、指定したキースペースは既に存在しています。」
 - 接続認証設定ありの場合、「テスト接続に成功しました。」

9. テナント環境セットアップを行います。

10. テナント環境セットアップの完了後、以下について設定します。

- IM-ContentsSearchを使用している場合

「Solr接続設定」画面で intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) で利用していたSolrサーバ接続設定を登録し、「テナント管理」画面にてSolr接続情報を更新する必要があります。

「Solr接続設定 新規登録」画面の初期値は、Solrサーバ接続設定（solr-config.xml）の設定値となります。

Solr接続情報の更新に関しては、「[システム管理者操作ガイド](#)」 - 「[Apache Solr接続情報](#)」を参照してください。

11. テナント毎に割り当てるライセンス数を設定します。

- intra-mart Accel Platform 2014 Spring 以降ではバーチャルテナント機能の追加にあたって

利用するテナントごとにアカウントライセンス、アプリケーションライセンスの上限数を設定をする必要があります。

「テナント管理」画面のライセンス設定より、利用中のテナントに対してライセンス上限数を設定してください。

操作の詳細は「[システム管理者操作ガイド](#)」 - 「[ライセンス設定](#)」を参照してください。



注意

設定を行わない場合、上限数「0」が割り当てられてしまうため、必ず行う必要があります。

以上で intra-mart Accel Platform 2013 Winter(Felicia) から intra-mart Accel Platform 2014 Spring(Granada) へのアップデートは完了です。

制限事項

[アップデート（2013 Winter から 2014 Spring）](#) にあたっての制限事項はリリースノートに記載されています。

バージョンアップ時には、必ずすべての制限事項を確認してください。